

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586027101	科目番号 / Subject code	05860271
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	環境と人類の持続可能な発展 (国際環境法)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 敬彦		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 敬彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 敬彦		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育 B 棟34		
対象学生(クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yamac@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	工学部 2 号館E-405		
担当教員TEL/Tel	095-819-2539		
担当教員オフィスアワー/Office hours	別途指示する。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させるとともに, 環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。合せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。		
授業到達目標/Goal	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させる。国際環境法の理念・精神を理解させる。		
授業方法(学習指導法)/Method	予習課題を基にした討論と解説		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	環境に対する考え方, 国際環境法, 国際環境法の歴史と特質		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	予復習課題30%, 試験20%, レポート50%で評価し, 60%以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし。		
学生へのメッセージ/Message for students	特になし。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ガイダンス: 科目の概要, 狙い, 位置づけ, 到達目標, 授業の方法, 各単元の到達目標, 評価方法等を理解する。		
第2回	環境問題をどのように考えるか: 環境問題とは? 環境をどのように考えるか? (環境に対する基本的な考え方, 環境倫理) 等について考え, それらを簡潔にまとめる。		
第3回	国際環境法の歴史と特徴: 二国間における紛争の平和的解決の条約から「部門別アプローチ」の国際環境法を経て, 国際共同体全体の利益を管理する取組みへと移行した歴史と, 現代の国際環境法の特質等を理解し, 簡潔にまとめる。		
第4回	人間環境宣言: 二国間における紛争の平和的解決のための条約から「部門別アプローチ」のタイプの国際環境法への転機となった国際連合人間環境会議における「人間環境宣言」の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第5回	第一世代の国際環境法: 第一世代の代表的な国際環境法であるラムサール条約, ユネスコ世界遺産条約及びワシントン条約の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第6回	第二世代の国際環境法(その1): 第二世代の代表的な国際環境法のうち, ウィーン条約とそれに附属するモントリオール議定書の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第7回	第二世代の国際環境法(その2): 第二世代の代表的な国際環境法のうち, パーゼル条約の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第8回	第二世代の国際環境法(その3): 第二世代の代表的な国際環境法のうち, 気候変動枠組条約及びその第3回締約国会議で作成された京都議定書の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第9回	第二世代の国際環境法(その4): 第二世代の代表的な国際環境法のうち, 生物多様性条約及びそれに附属するカルタヘナ議定書の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第10回	第二世代の国際環境法(その6): 第二世代の代表的な国際環境法のうち, ロッテルダム条約及びストックホルム条約, 水銀条約の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		

第11回	ソフト・ロー（その1）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書の役割とそれらの文書のうち、世界自然憲章、森林原則宣言及び環境と開発に関するリオ宣言の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
第12回	ソフト・ロー（その2）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書のうち、アジェンダ21及び持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
第13回	非政府組織の参加と国際環境法の課題：現代の国際環境法の特徴の一つである私的アクター、すなわちNGO（非政府組織）の存在とその組織及び活動について理解を深める。また、気候変動枠組条約と途上国、国際環境法間の連携、環境と貿易などの国際環境法の課題を理解し、簡潔にまとめる。
第14回	演習
第15回	テスト・レポートのまとめ：テストによる知識の定着の確認を行う。また、環境法（国際法）と環境問題への取組みのまとめを完成させる。ポイント：もれなく、ダブリなく、分かりやすく簡潔に自分の言葉でまとめる。
第16回	総括：講義の評価を行い、改善点等について議論する。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586027301	科目番号 / Subject code	05860273
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	環境と人類の持続可能な発展 (国内環境法 )		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	竹下 哲史		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	竹下 哲史		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	竹下 哲史		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟13		
対象学生 (クラス等) / Object Student	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	juniper@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	産学官連携戦略本部 2F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2227		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールで問い合わせ		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解させるとともに, 「環境基本法」の主旨を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。 併せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。		
授業到達目標 / Goal	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解させる。「環境基本法」の主旨を理解させる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	予習課題を基にした討論と解説		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	日本の環境問題 環境対策の考え方 国際環境法との関係 環境基本法 環境基本計画		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	予習課題30%, 試験20%, レポート50%で評価し, 60%以上を合格とする。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	特になし		
学生へのメッセージ / Message for students	特になし		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	【日本の環境と環境政策】 日本における環境問題とそれらへの対策の考え方や歴史, さらに国際環境法との関係等を理解する。		
第2回	【環境基本法】 日本における環境に関する基本的法律である環境基本法の概要, 目的, 基本理念, 及び各主体の責務を中心に理解する。		
第3回	【環境基本計画】 日本における環境政策の基本である環境基本計画の概要ならびに第四次環境基本計画の主旨等を理解する。		
第4回	【環境基本計画】 第四次環境基本計画における環境の状況及び環境政策の課題と目指すべき持続可能な社会の姿を理解する。		
第5回	【環境基本計画】 第四次環境基本計画における今後の環境政策の展開の方向および環境政策の原則・手法を理解する。		
第6回	【環境基本計画】 第四次環境基本計画における重点分野ごとの環境政策の展開を理解する。		
第7回	【環境基本計画】 第四次環境基本計画における東日本大震災からの復旧・復興に際して環境の面から配慮すべき事項を理解する。		

第8回	【環境基本計画】 第四次環境基本計画における放射性物質による環境汚染からの回復等を理解する。
第9回	【環境基本法と環境関連法との関係】 環境基本法とその他環境関連法との関係を理解する。
第10回	【循環型社会の形成】 環境基本法の下位法である循環型社会形成推進基本法の概要、目的等を理解する。
第11回	【生物多様性の確保】 環境基本法の下位法である生物多様性基本法の概要、目的、基本原則等を理解する。
第12回	【オゾン層の保護に関する法律】 オゾン層保護法（特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律）の主旨を理解する。
第13回	【環境教育等による環境保全促進法】 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律の主旨を理解する。
第14回	【演習】 演習問題による知識の定着の確認を行う
第15回	【まとめ】 学習した国内環境法 について、レポートとしてまとめる。
第16回	【総括】 講義の評価を行い、改善点等について議論する。

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586027501	科目番号 / Subject code	05860275
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	環境と人類の持続可能な発展 (国内環境法)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	久保 隆		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	久保 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	久保 隆		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟13		
対象学生(クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kubo-t@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	総合教育研究棟10階1008室		
担当教員TEL / Tel	095-819-2246		
担当教員オフィスアワー / Office hours	事前連絡があれば随時受け付ける。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	教養科目。国内の主な環境関連法の主旨を理解させるとともに、環境教育や環境コミュニケーションの重要性を理解させ、人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。合わせて、自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上および社会貢献意欲の醸成等を目指す。		
授業到達目標 / Goal	国内の主な環境関連法の趣旨を理解する。環境教育や環境コミュニケーションの重要性を理解する。		
授業方法(学習指導法) / Method	予習課題を基にした討論と解説		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	環境関連法, 環境配慮, 環境教育, 環境コミュニケーション		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	予復習課題30%, 試験20%, レポート50%で評価し, 60%以上を合格とする。		
受講要件(履修条件) / Requirements	授業外学習に充てるべき時間: 週平均2時間以上		
学生へのメッセージ / Message for students	聴くだけでなく、グループディスカッション等で発言を求められることも多い講義です。積極的な取組を期待します!		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	大気環境の保全: 大気汚染防止法の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第2回	水環境の保全: 水質汚濁防止法の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第3回	廃棄物の処理: 廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第4回	エネルギー使用の合理化: 省エネ法(エネルギー使用の合理化に関する法律)の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第5回	地球温暖化対策: 温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第6回	日本のエネルギー事情(その1): 日本のエネルギー事情について学ぶ。		
第7回	日本のエネルギー事情(その2): 日本のエネルギー事情について学ぶ。		
第8回	化学物質の管理(その1): PRTR法, 化管法(特定化学物質の排出量の把握等及び管理の促進に関する法律)の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		
第9回	化学物質の管理(その2): 化学物質等安全性データシートの概要を理解する。		
第10回	化学物質の管理(その3): 毒物及び劇物取締法の主旨を理解し, 簡潔にまとめる。		

第11回	<p>環境への配慮： 環境配慮促進法（環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律）の主旨を理解し，簡潔にまとめる。</p>
第12回	<p>環境物品等： グリーン購入法（国等による環境物品等の調達に関する法律）の主旨を理解し，簡潔にまとめる。</p>
第13回	<p>環境報告書： 長崎大学環境報告書等を例にとり，環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。</p>
第14回	<p>演習： 演習により、知識の整理を行う。</p>
第15回	<p>まとめ： テストによる知識の定着の確認を行う。また，環境関連法（国内法）と環境コミュニケーションのまとめを完成させる。ポイント：もれなく，ダブリなく，分かりやすく簡潔に自分の言葉でまとめる。</p>
第16回	